

北海道遺産
Hokkaido Heritage

北海道遺産・北見市指定文化財

ピアソン記念館

第95号

2020.12. 5

ピアソン便り

発行人：吉田 邦子（理事長） 編集人：伊藤 悟（理事）

NPO 法人ピアソン会事務局

（事務局長 伊藤 悟）

〒090-0036

北見市幸町7丁目4番28号

Tel. FAX 0157-31-1215

ピアソン記念館内

午前9:30～午後4:30

e-mail アドレス

pierson@yacht.ocn.ne.jp

第29回
文化サロン de ピアソン

遠軽家庭学校の設立者留岡幸助の物語
「大地の詩」^{うた} 上映会、無事終了しました！

10月10日の土曜日、午後5時より上映会を実施しました。新型コロナウイルス感染症で、自主事業をできない状況が続きましたが、ようやく今年度二事業目として開催することが出来ましたが、3密を避けるということが出来ません。通常の3分の2の定員20名限定での開催でした。結果的には21名の参加となりました。上映会時の写真にあるように展示ケースを鑑賞者の間隔を開けるため、人と人との間に置き、また私語は慎んでいただき、約2時間静かな上映会でした。

遠軽家庭学校の創設者「留岡幸助」の物語でしたので興味を持って集まっていたのですが、どのような経緯で家庭学校を開いたのか、意外と私たちも知らなかったので興味津々としての鑑賞となりました。

上映後の正直な感想としては、映画そのものの評価は、意見の分かれる作品となってい

たのではと判断されます。消化不良を起こしてしまつた時のように、筆者にとつては何かしらモヤモヤとした心地悪さが残つてしまつた映画でした。それは、遠軽家庭学校と留岡幸助との描写が、撮つて付けたように感じたからかもしれません。テーマである主題を描かずに終わってしまった映画、そんな印象でした。



クリスマスツリーを設置



12月3日にクリスマスツリーを設置しました。幼稚園児が願いを込めて作成した飾りを、今回は新型コロナウイルス禍という事もあり園児での飾りつけを大人が代行しました。

恒例のクリスマスリースを作る講習会が11月29日に実施されました。この日を楽しみに待っていた21組の参加者はピアソン記念館庭で採取したニオイヒバや柏の葉などを使得、思い思いのデザインでリース作りを楽しみました。密を避けるため人数制限下での講習会でしたので、来年はもっと多くの人が参加できるようにと願っています。魔除けリースに期待を！

第30回
文化サロン de ピアソン

「三栢の杜」の木の実などを利用した
クリスマスリース講習会終了！

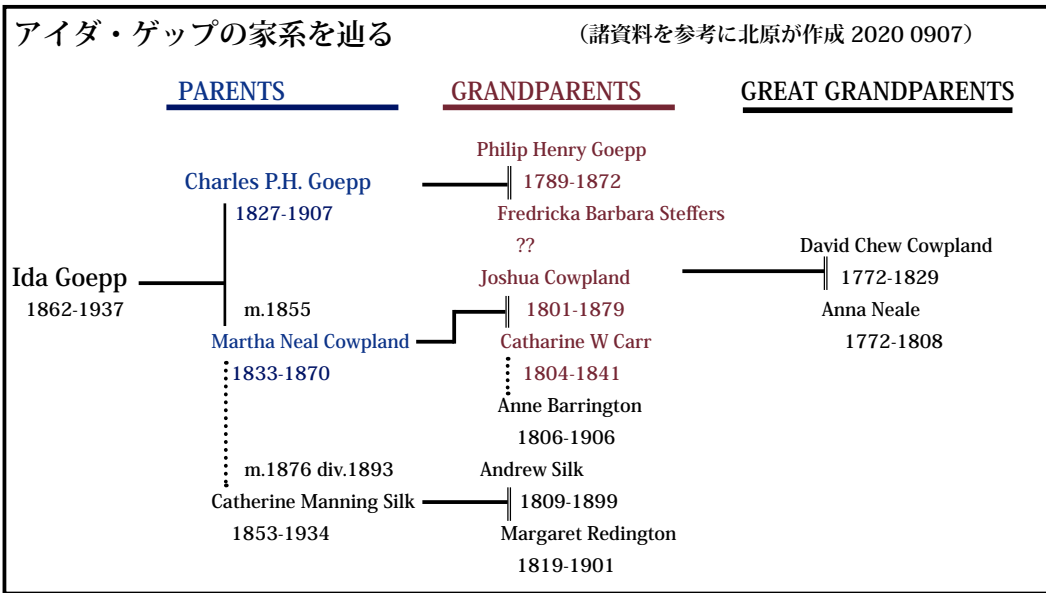
投稿

ピアソン夫人の親について

文責：北原俊之

アイダの親・義母・親代わり伯母について

新聞・公的記録・ウェブ情報をまとめました



父について

Charles Philip Henry Goepf

■新聞記事ー死亡欄

元判事ゲップさん逝去

元判事チャールズゴエップさん80歳がフィラデルフィアで亡くなりました。彼の妹さんは、(ペンシルベニア州)ベスレヘムに住むミセス・オテリー・デ・シユウエイニツさんで、ゲップ家で唯一の存命の遺族です。ゲップ元判事は、ヨーロッパで生まれ、故フィリップ・H・ゲップ牧師の御息で、もともとはドイツの家系であり、1834年に家族とともにアメリカにやってきました。父親のゲップ牧師は、一時期、ベスレヘムの市長burgessを務めましたし、また長年にわたり、モラヴィア教会の不動産管財人でもありました。

※1907.4.25付け

『アレントアウン・リーダー』紙 (ペンシルベニア州アレントアウン)

■死亡診断書(必要事項のみ)

出生 1827年9月4日ドイツ
 父、母もドイツ生まれ

自宅
 フィラデルフィア北25番通り869番地

死亡 1907年4月23日(日)午前6時 自宅にて

死因 突然の脳溢血により死亡。20年ほど前から動脈硬化症状が確認されていた。

葬儀 自宅にて。

埋葬 4月25日(火)ユニオン・ローレル・ヒル墓地

※医師による死亡診断書

(フィラデルフィア発行)

■家系調査ウェブ・サイト

出生 1833年2月16日フィラデルフィア

両親 Joshua Cowpland (1801-1879) Catharine W Carr (1804-1841)

後妻 Anne Barrington (1806-1906)

商業を営む家庭。一プロテスタント。Cowpland家はEngland、Neale家はIreland、からの初期移民のようです。 ※8人の5番目(二女) 弟のRev. Joshua Cowplandは聖公会の牧師。

墓地

祖父 Joshua と同じ墓に Martha, Charles Goepf とともにあり。

※母 Catharine は子供を8人産んでまもなく逝去している。

後妻 Anne にも子供あり。割愛。 ※弟の Rev. Joshua Cowpland は Epiphany Church の教区副主任 (1885-1887)。墓は、聖公会墓地 Saint Johns Episcopal Church.

※出典 Online Library

Notes and queries: Chiefly relating to Interior Pennsylvania, Volume 2

母について

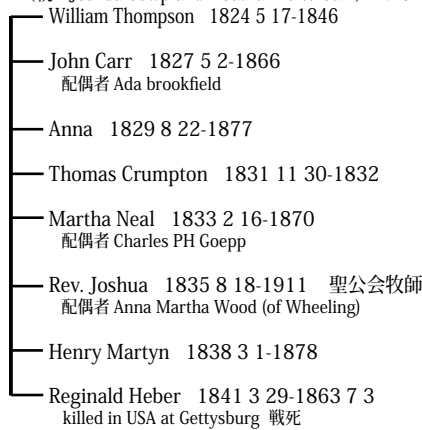
Martha Neal Cowpland

■死亡診断書

出生 住所：フィラデルフィア南16番通り11番地
 結婚 1855年 Charles Goepf と
 死亡 1870年5月15日(37歳)

アイダ・ゲップの母親の兄弟姉妹

(親: Joshua Cowpland : Catharine W Carr) m.1823



ペンシルベニア精神病院で。急性の躁病がもたらした脳卒中

死因

葬儀 1870年5月18日 エピソ

アニー教会(住所:フィラ

デルフィア15番通り、チェ

スナット通り角)

埋葬 West Laurel Hill墓地

葬儀社 フロリスト・ウィリア

ム・J・ムーア(住所:フ

イラデルフィアアーチ通り

505番地)

※医師による死亡診断書

(フィラデルフィア発行)

医師署名ウィリアム・P・ムーン

※詳細画像は後掲

■母 Martha が眠る墓地

West Laurel Hill Cemetery

Bala Cynwyd, Montgomery County,

Pennsylvania, USA



Joshua Cowplandの墓に記録されている人々

- ※ Ida Goepf の母方の祖父
- J. Cowpland 1801-1879
- Catherine Carr Cowpland 1804-1841
- Anne Barrington Cowpland 1806-1900
- Anna Cowpland 1829-1877
- Ann Jane Carr 1801-1857
- Martha Neal Cowpland Goepf 1833-1870
- Charles Goepf 1827-1907
- Philip Henry Goepf 1864-1936
- Mary Edith Cowpland 1875-1940

Ottilie de Schweinitz Marie Ottilie Goepf de Schweinitz

ドイツでの母がわり

※原文抄(翻訳)を最後に掲載。

- (1) 私が6歳のときに母が亡くなったこと。
- (2) その結果、私、姉たち、弟と別れ別れになり、伯母のO・デ・シュウエイニツ夫人のお世話になったこと。
- (3) 1877年に米国に戻り、ハーバード大学受験準備をしたこと。

母 Martha がなくなった後、一家はドイツ・シュトゥットガルトで、父の妹の世話になります。

■新聞記事ー死亡欄

オテリー・デ・シュウエイニツ夫人

モラヴィア教会牧師、故バーナード・デ・シュウエイニツ牧師の夫人オテリー・デ・シュウエイニツさんが、昨日朝、ベスレヘム・イーストサイド・チャーチ通りの未亡人対象のアパートで逝去しました。87歳でした。彼女は、父フリップ・ヘンリー・ゲツプ、母フレドリク・ゲツプの娘として、1831年9月16日、ドイツのノイディテン(現在ノイディテンドルフ)で生まれました。お子様が一人いて、リーハイ大学の教授をしているP・バーナード・デ・シュウエイニツ、そして3人のお孫さんがいます。葬儀は水曜日に行われます。

義母について

Kate Goepf Catharine Manning Silk Goepf

■家系調査ウェブ・サイト

Ida の母 Martha 死後、父は、若い Kate と再婚しました。

出生 1853年 Shattsbury, Bennington Co., Vermont

両親 Andrew Silk (1809-1899) Margaret Reddington (1819-1901)

農場経営者。1840年代後半以降にアイルランドからやってきた移民で、宗教はカトリックのようです

結婚 1876年(23歳)

離婚 1893年12月

死亡 1934年1月4日サンフランシスコにて。

※ Family Search

義母と父の離婚について

Kate Goepf と Charles Goepf

新聞記事により、二人が離婚していることが明らかになりました。理由は「虐待、証拠なし」とあることから、「精神的な苦痛」ということではあられ。宗教の違いによるのではないのでしょうか。また、離婚後も Goepf 姓を名乗っているのも不思議なことです。

■新聞記事【地域の話題／雑記】

▼1893(明治26)年11月8日(木) チャールズ・ゲツプは、妻ケイト・ゲツプからの離婚訴訟を上位裁判所に起こしました。

▼1893年12月6日(水)

昨日、チャールズ・ゲツプとケイト・ゲツプの離婚裁判が上位裁判所第二法廷で非公開で開始された。原告の最初の申し立て事由は、虐待であるが、実際にそれを証明する証拠は提示されなかった。裁判は金曜日午前まで行われ、さらなる聞き取りがなされる。

▼1893年12月12日(火)

ピュータボー判事は、ケイト・ゲツプから出された虐待を根拠とするチャールズ・ゲツプに対する離婚の訴えに対する決定を昨日下しました。

※1893・11・8〜12・12付け

『サンディエゴ・ユニオン&デイリー・ビー』紙 (カリフォルニア州サンディエゴ)

父について

【ある本で紹介された半生記】

チャールズ・ゲツプ氏は、1827年9月4日、シレジアのグナデンフェルトで生まれました。この地で父親がモラヴィア教会のコミュニティーの学校で教師をしていたからです。1833年に父親

アイダ・ゲツプの父親の兄弟姉妹 (諸資料をもとに北原作成)

(親: Philip Henry Goepf : F B Steffers)
Charles PH Goepf 1827-1907
配偶者 Martha Neal

- Rudolf Max Goepf, "Max Goepf" 1830-1872 1831-1918
- Marie Ottilie Goepf de Schweinitz "Ottilie deSchweinitz" "tellie Goepf" 配偶者 Bernard de Schweinitz
- Ellen Elizabeth Goepf 1836-1840
- Mary Cornelia Goepf 1842-1845

はドイツ・ザクセン地方のヘルンフートに転居したため、チャールズは初期の教育をその地で受けました。しかし、1833年、一家はアメリカ合衆国に移住し、短期間ニューヨークにいましたが、すぐに、ペンシルベニア州ベスレームに転居し、長老格のゲップ家は、この地でモラヴィア教会の不動産の管財人を長く務めることになりました。

チャールズ・ゲップ氏は、1837年以降、私立学校で学び、1841・1842年、モラヴィア教会神学校の予備校で学びました。その後、彼は、父の願いに応えて、ラウジッツ地方ニースキーのモラヴィア教会神学校に入学しましたが、教育内容は良かったものの、厳格すぎる規律・戒律に嫌気が差したため、2年後に米国ペンシルベニア州に戻りました。それ以降、彼は、ペンシルベニア州イーストンで法律の勉強に打ち込み、1848年国政に関わる活動を始めて、「淮州への奴隷制度拡大に反対する」自由土地党の候補者を支援しました。1850年、彼は、ジョゼフ・マイナーとの共同経営によって、フィラデルフィアに法律事務所を開設しましたが、残念なことにそれから2年後共同経営者が亡くなり、この前途有望な事業は突然終わりを迎えることになりました。

ゲップ氏は、「フォーティ・エイターズ」の活動になみなみなめ関心を持ち、「ホイーリング会議 Wheeling Congress ※」では急進派のリーダーの一人でした。彼は、他のドイツ改革派の人々と同様に、米国共和党に加わり、1856年にはフリーモン、1860年にはリンカーンを熱烈に支持しました。南北戦争が始まると、ゲップ氏は、軍務に就き、まずはイーストン「イエーガー」隊の中尉 1st Lieutenant として [1861.4.24

召集、後には、第9ペンシルベニア義勇軍の大尉 Captain、そして、連隊副官 adjutant に昇進しました。義勇軍の軍務を三カ月務めた後、彼は普通の文民生活に戻り、弟のマックス・ゲップ氏と共同で法律の仕事に続けました。1863年彼は、ニューヨークのフレデリック・カップ氏の事務所に加わり、カッピングが1869年にドイツに戻るまでのあいだそこで実務を重ねました。

ゲップ氏は、妻が1870年に亡くなった後しばらくヨーロッパを渡り歩き、その後、米国に戻ってすぐに、ニューヨークのマリン・コート(裁判所)の判事に選任されることとなり、その職責をとても有能な手腕を発揮して果たしました。

ゲップ氏は、優れた能力を持ち、影響力の大きい人物であり、ドイツ人、イギリス人両方に対する知識があるために、その当時その両国民のことがほとんど理解されていない世の中で、彼は唯一それらの国民をよく理解しているという立場になることができました。「フォーティ・エイターズ」を支持する彼の努力は、特に賞賛に値します。『ニュー・ローマ』以外にも、ゲップ氏は、議会制民主主義に関する書物を書いていますし、数多くドイツの作品を翻訳しています。

出典 A Political Prophecy of the

Forty-Fighters in America

『アメリカの「フォーティ・エイターズ」が預言する今後の政治情勢』

著者 Julius Goebel (イリノイ大学)

※ Wheeling Congress の意味が不明ですが、とりあえず「」の様に訳出してみました。南北戦争前からホイーリング市のある地域がバージニア州から独立するかを話し合う会議のことでしょうか。

母 Martha 死後の家族動向を記した Philip Henry Goeppl の記録

フィリップ・ヘンリー・ゲップ

両親、チャールズ・ゲップ、マーサ・ネイル(カウブランド)・ゲップ。1864年6月23日ニューヨーク市生まれ。大学進学までの学歴、ギムナジウム(中等学校)ドイツ・シュトゥットガルト)、リセ(フランスの中等学校)ドイツ・エスリンゲン)、J・ザックスの予備校(ニューヨーク市)、他の予備校(ニューヨーク・スタテンアイランドとドイツ・シュトゥットガルト)。

本人の記載によると:

卒業するまでの間の、私の青春時代最大の出来事は:

- (1) 私が6歳のときに母が亡くなったこと。
- (2) その結果、私、姉たち、弟と別れ別れになり、伯母のO・デ・シュウエイニツ夫人 Mrs. O. de Schweinitz のお世話になったこと。
- (3) 1877年に米国に戻り、ハーバード大学受験準備をしたこと。これらの出来事を経験する中で、さらに私の人生を決定づける影響を与えてくれた要因は、

1. 私自身と母の家庭の中の書物

好きな雰囲気。

2. 少年期をドイツで過ごしたことによるドイツ的な考え方や理想を身につけたこと。
3. 幼少期から音楽が好きであり、それが変わらぬに、11歳のときドイツで更に好奇心が高まったこと。

出典:

Report of the secretary by Harvard University. Class of 1884 : 1909

母マーサの死亡診断書

死因・病名

Apoplexy & Acute Mania

病院名

Pennsylvania Hospital for the Insane.

RETURN OF A DEATH IN THE CITY OF PHILADELPHIA. PHYSICIAN'S CERTIFICATE.	
1. Name of Deceased.	<u>Martha N. Goeppl</u>
2. Color.	<u>White</u>
3. Sex.	<u>Female</u>
4. Age.	<u>37 years</u>
5. Married or Single.	<u>Married</u>
6. Date of Death.	<u>May 15, 1870</u>
7. Cause of Death.	<u>Apoplexy & Acute Mania</u>
	<u>William P. Moon M.D.</u>
	<u>Residence, Penna. Hospital for the Insane</u>
UNDERTAKER'S CERTIFICATE IN RELATION TO DECEASED.	
8. Occupation.	
9. Place of Birth.	<u>Phila</u>
10. When a Minor, {	Name of Father.
	Name of Mother.
11. Ward.	<u>9th</u>
12. Street and Number.	<u>11 South 16th Str.</u>
13. Date of Burial.	<u>May 15, 1870</u>
14. Place of Burial.	<u>Epiphany Church</u>
	<u>15th at Chestnut</u>
	<u>Wm J Moor Undertaker.</u>
Residence.	<u>office 505 Arch St.</u>

This constitutes one Certificate. To be returned to the Health Office on Saturday of each week, before 12 M.

「ニュージーランドからの便り」第24回



ピアノン会顧問
G・ハード氏

2020・9・25

◆一昨日作業員たちが来て、電話回線とインターネット接続用に新しいブロードバンドファイバーケーブルをインストールしてくれました。電話会社では、来年半ばにはもう古い回線が使えなくなると助言してくれていたのです。

◆今日は朝から心地よい春らしい季節です。もう薪ストーブも使わないので手入れを済ませました。プラムの花も終わり、池には睡蓮の葉が多く、いくつもの白い蕾が見えています。漢字は第一次水準で、尺八の練習も続いています。

◆ニュージーランドは来月の国政選挙に向け今や最高潮です。ジャシнда・アーダーン首相は人気がありますが、新しい国民党リーダーのジュディス・コリンズは経験を重ねた強みがあります。

◆感染症は時折発症もあり、経済面はより厳しくなっています。選挙結果が気になります。ニュージーランドは歴史的にも、日本のように、政治は保守的で、なかなか思考の変換がなりません。

◆終末期医療患者が苦痛から逃れ

るため命を絶つ権利が許されるか、麻薬の使用解禁はどうかなどの国民投票もあります。どちらも国を分断する事柄で、結果の予測は難しいです。

◆姉たちは新しい住まいで快適です。弟と私は週に一度は訪ねてデイナーを共にし、電話での連絡も取り合っています。来月にはワングヌイまで南下できれば良いのですが。状況にもよりますが、オークランドはレベル2で、他都市の1よりも厳しい。オークランド住民が拡大させている

2020・10・4

◆数日来、素晴らしい春の天候で、シエイクスピアパークの上空には素晴らしい満月が昇りました。初めての睡蓮が咲きました。ジャガイモ、豆、人参、ほうれん草、シルバービートを植えました



が、まだ姿は見えませんが、新しい菜園を準備したところから。北見では美しい秋の彩りでしょう。

2020・10・17

◆今日は国政選挙の日です。今夜のテレビでの結果が興味深いです。今回は感染症の関係もあり、何日

間かの期日前投票も可能で、私は済ませていました。ニュージーランドでは一院制で、2種類の投票です。一つは政党に、もう一つは選挙区の議員にです。世論調査によれば、労働党のジャシнда・アーダーンはジュディス・コリンズ率いる国民党を引き離しています。が、実際にはどちらになるか、今夜の結果を待たなければなりません。他の党は、5パーセント以上得票すれば議席が得られます。右寄りのACT党、左寄りの緑の党がそれに届きそうです。そこで、可能性としては労働党と緑の党の連立という結果になるか。

◆国内の移動は自由になったので、来週はワングヌイへ行く予定です。6月以来のことです。今朝、湾の方にカラフルなヨットが何艘か見えました。写真を撮ります。新しい携帯に馴染んできました。古かったのよりはずっと速く、また画面が鮮明ですから嬉しいのです。

2020・10・26

◆ファンガヌイ滞在を楽しんでいます。ファンガヌイがファンガヌイになっていることに気づいたかもしれません。現在はファンガヌイの朝食に食べます。ルバーブが豊作で、姉や弟にシェアし、弟の木から美味しいグレープフルーツをもらいました。毎日睡蓮が咲きま

してですが、まだ異論もあるところです。今日は、労働者の日休日でもあり、長い週末休みとなりました。コロナ後初の休日週末で、大勢が出かけています。花は、リソゴにまだ少し咲き残っています。

◆先日、飛行機が近所の農場に肥料散布するのが見えて面白かったです。航空ショウウみたいでした。超高空飛行を危険に思いましたが上手なもので、事故もなく終えました。私の土地にも少しは降った、と思います。写真を撮りましたが、よくは見えません。◆今朝、従兄弟が農場回りに連れて行ってくれました。今年は牧草が豊作で、羊にいい状態です。天国にいるかのように思いました。

2020・11・10

◆ファンガヌイでの楽しい滞在を終えてファンガパラオアに戻っています。ニュージーランドを通じて、そこでは従姉妹のマーガレットや他の人たちと昼食を囲み、ディナーはオークランドで弟と一緒に楽しく、とても心地よい長い一日でした。留守の間も順調な日々だったようで、何日間か雨が降ったので、庭は良い状態です。

す。写真添付します。◆世界が一致協力して、直面する諸問題に取り組みで行けると良いですね。

このことなら、よしへ!!

めがねよっし

Y090-0043
北沢市北三浦西3丁目
TEL:0157-57-3664
定休日：毎週水曜日
営業時間：10:00-19:00

！！

グッズの旗布

！！として！！

- ・絵葉書
- ・押し花
- ・香り袋
- ・マグネット
- ・薄荷(和種) 地元産
- ・クリアファイル
- ・ピアノンブックレット

(第一号から第七号)

改訂版「使徒はふたりで立つ」
改訂版「六月の北見路」

※詳細は、ピアノン会ホームページにてご覧ください。

スポンサー募集！

今後もピアノン便りの隔月刊発行を継続するために、協力スポンサーを募集しています。年間1万円の協力で、会報に右図スペースでの広告を毎回掲載します。スペースを6回とします。スペースを2倍とした場合は年3回となります。詳細については事務局まで。

「ピアノン学事始め」 12

この「ピアノン学事始め」は、18年前に街の情報誌に書かれたものですが、少し手を加え年号なども修正し改稿として連載しています。

ピアノン会理事 伊藤 悟

(12) ピアソン、北海道伝道への旅立ち

故小池創造牧師著「田舎伝道者」によると、「ピアノンが北海道に一時的に移り住んだのは一八九二（明治二五）年頃と想像できます。函館に居を構え、室蘭や伊達に出かけ布教に専心した」と書かれています。また、続いて次の文が記載されていますが、これは小池氏がどの文献をもとに引用されたのか、極めて興味ある記述です。「ピアノンは室蘭にも僅かの間であるが、函館から加藤ちかというクリスチャンのコックをつれてきて住んだこともあるという」という一文です。

ピアノンが野付牛に居を構えた時、旭川から『加藤定吉・ツカ』という夫妻を伴って来ておられますが、『ちか』と『ツカ』を、同一人物と考える方が結構多くいるのです。しかし、これはピアノンがツカに宛てた手紙から、別人と判断せざるを得ません。

ピアノンがアメリカへ帰った後、定吉が亡くなった知らせを受け書いた手紙に『思い出して見れば旭川の時代の御交際その時から：』とあるのです。また、ツカは旧姓は市川（生年月日は明治十二年）です。それにしても、偶然か似た名前が一時私たちを混乱させたことには間違いありません。加藤ちかについては現在何もわかっていません。また、ピアノンが函館に住んだことも立証されていません。ただ、北星女学校の記録や室蘭教会の記録などから、明治25年頃の一時期、北海道で活動していたことは事実ようです。『外国人内地旅行免状』の法律の制限で色々と工夫しながらの北海道滞在であったでしょう。

ピアノンは一八九四（明治27）年に小樽へ居を移し、その翌年の六月に、東京でアイダ・ゲツプと結婚します。その後本格的に北海道での活動が開始されるのです。



素敵な来館者！

秋晴れの10月8日木曜日の午前中、ピアノン公園に「めぐみ保育園」の園児たちが遊びに来ていました。元気に公園の中を駆け回り、お友達や先生を呼んでまた駆け回る。色付いた木々の葉が落ちた芝生と子供たちと、抜けるように青い空、思わずカメラを持ち出し、先生の許可を得てシャッターを切りました。この3週間後には、公園の木々の葉も全て落ちてしまい、今は冬を待つばかりの公園になっています。

下の写真は、10月22日木曜日に、市立中央小学校一年生40名が来館した時の玄関の様子です。久しぶりの団体来館でしたが、写真は「個人情報保護法」のこともあり、靴だけを撮影させてもらいました。



編集後記

95号をお届けいたします。しばらく、新型コロナウイルス感染も下火でしたが、寒い季節を迎えた頃から北海道では感染が多く報道されるようになってきており、11月末現在で札幌の規制強化と、全国的にも危機的な状況が報告されるようになっていきます。今年の2月頃から専門家達は冬の注意を喚起していたように、寒さとともに感染の数字が上がって来ましたが、しかし、医療機関以外では、ある意味で楽観的な考えが支配していたのか、この時期を迎え撃つ対策が、国の施策を含めて極めて後手であるように感じるの私だけでしょうか？『備えあれば憂いなし』の格言を重要視して、当館では、春よりこの冬に備え、来館者のために考えられる備蓄と対策は全て準備して来たつもりです。マスク・各種消毒液・加湿器・使い捨てスリッパ・トイレの消毒設備などなど。ささやかですが。

（理事兼事務局長）伊藤 悟